

厚生労働科学特別研究第1回班会議議事要旨

日時：平成25年10月23日(水)18時 22時

会場：統計数理研究所八重洲サテライト

議事

1. 厚生労働省 江副 聡氏より、自殺対策の現状、本研究班立ち上げの経緯、目的、期待などが示された。

2. 代表者、分担者、協力者から自己紹介と共に研究紹介、問題意識などが示された：

2-1: 椿代表者あいさつ並びに久保田協力者と共に紹介

椿より、本研究班交付申請に当たって種々ご尽力いただいたことに感謝が述べられた。また交付申請書に基づき、諸学術分野の研究者が問題意識を出し合い、多様かつ複合的な自殺現象に対策資する研究俯瞰を行い、政策的意義のある総合的研究の方向性を明らかにしたい旨挨拶があった。引き続き、本研究班代表としてシステム科学的アプローチの必要性を述べたうえで、欠席の鈴木和幸教授のリスク情報・システム科学の構想などを紹介した。また、統計数理研究所リスク解析戦略研究センター自殺・メンタルリスクプロジェクトとそこが行っている自殺時空間集積性分析、自殺要因分析、ツイッターの分析が紹介された。

2-2 川端分担者：自殺予防と法制度（刑法上）に関わる竹島先生との共同研究、特に自殺への関与（自殺教唆、自殺ほう助など）に関わる研究（自殺援助と死因とのかわり、Finland の高自殺率原因の究明）、背景にある現象解明の方法としての弁護士相談による自殺の原因究明（自殺の法的複雑性から導かれる自殺対策）、マイノリティが追いつめられることによる自殺についての法的対応の問題などが紹介された。

2-3 澤田分担者・清水協力者：自殺の社会経済的背景と実態の実証的解明、なぜ自殺対策は必要か（遺族数推計、ウェルテル効果、生命保険支払の経済インセンティブなど）、エビデンスに基づいた自殺対策の効果検証（自殺対策基金、こころの絆創膏、青色灯など）の計量経済学的分析などが紹介された。日本の自殺の実態と共に、大局的見地から自殺総合対策によって日本に何が起こったのか、その価値観、理念、対策枠組みの変動を効果検証を行わなければならないこと、それらが、WHO の活動レポートに組み込まれるべき点でもあるとの提言がなされた。

2-4 島園分担者、堀江協力者：文化・宗教と自殺とのかかわり方の現状に関するこれまでの研究、国際的動向を紹介するとともに、宗教者の社会活動（特に、我が国の仏教）としての自殺防止について紹介があった。自殺と自己犠牲との差異などにつ

いて死生観の立場から問題提起があった。

2 - 5 藤森分担者，竹島協力者：国際的自殺対策の実態，および課題把握のための調査研究の必要性，方法，研究計画について紹介があり，WHO 会議参加者に対して調査を行うので，この機会に本研究班研究者にも質問項目を提示するよう希望が示された。

2 - 6 山本分担者：社会学観点からこれまで研究した暴力団排除の取組みについての研究を例に地域社会に安心を与える方法の研究とはどのようなものであるかを紹介し，自殺の認知についての計量的分析などのあり方も提言した。

2 - 7 渡辺協力者：教育学，発達心理学的視点から生徒が抱える危機とその危機を予防し，自殺を予防するための教育の学校や社会への導入についての国内外の研究動向について紹介があった。

3. WHO 会議への対応

12月16-18日に秋葉原で行われるWHO世界自殺対策会議について，竹島協力者より紹介があるとともに，そこでのカントリーレポートの構成案について意見が求められた。清水協力者より，レポートに盛り込まれるべき内容について提言が示された。カントリーレポートについてはそこに含まれるべき各学術領域の項目をWHOからエビデンスを求められることを前提に研究班メンバーが必要に応じて提出することとした。藤森分担者から要請のあった参加者アンケートの質問項目についても各メンバーが提出することとした。12月16-18日に出席可能なメンバーは可能な限り，出席することとした。

4. 今後の進め方：次のような進め方が代表者より提案された。

11月中：研究課題項目のアイデア出し、海外研究、データなどの洗い出し

12月WHO会議終了ころ：

各個別学術領域ごとに推進すべき研究課題項目の確定と海外動向などの確認、学術間の関連性の分析、WHO会議前：諸領域の相互理解と研究項目についての自由な議論、政策や現場と連携できる研究項目のデザインについての自由議論

1月上旬：各領域別レポートのアウトライン完成

2月上旬：総合的方向性のアウトライン完成

2月15日ころまで：各領域ごとに推進すべき研究課題についての報告書ドラフト

3月10日ころまで：政策的ソリューションに繋がる総合的研究の提言案完成

3月末：報告書完成

厚生労働科学特別研究第2回班会議議事要旨

日時：平成26年1月26日 12時 15時

会場：統計数理研究所八重洲サテライト

出席者 椿，伊東，岡本，河島，久保田，澤田，鈴木，清水，
竹島，藤森，堀江，山本，渡辺

議題1：前回議事要旨の確認

確認されたが，第1回会議についてはテープ起こしの上で議事録も記録として残すこととした。以降，そのようにする。

議題2：研究分担者の研究報告

・岡本先生，鈴木先生が自身の研究分野について報告し，質疑応答があった。

自殺対策に資するコホート型データとそれに対する要因データのリンケージ，リスク情報・システム科学の方法論の自殺対策分野への適用可能性についての活発な議論が行われた。

議題3：WHO 会議報告と WHO カントリーレポート取りまとめについて

WHO 会議出席者・オブザーバーから概要報告と感想を聴取した。日本の総合自殺対策の先進性について，改めて認識する機会となったという点では一致した。WHO カントリーレポートとして研究班から提出する案について意見交換がなされ，若干の文章修正の上，翌日，WHO 担当者に提出することとなった。

議題4：研究報告書のとりまとめについて

各分担者，協力者は，23日までに代表者に各領域の報告書アウトラインを提示し，椿が，それを基に研究報告書の総合的部分についての構成について次回研究会議で報告し，その後，総合部分について早急に起案することとなった。報告書の原案については，次回会議に各分担者・研究者が持ち寄ることとする。

議題5：次回班会議とパネル討論

次回班会議はパネル討論が実施される3月2日夜とし，報告書とりまとめの最終案とする。各分担者，協力者はパネリストや討論者のリストを早急に代表者に提出されたい。原則として，分担者または協力者をパネリストとする。

厚生労働科学特別研究第3回班会議議事要旨

日時：平成26年3月2日 18時 21時

場所：学術情報センター2階会議室

出席者 椿，伊東，岡本，久保田，澤田，鈴木，清水，竹島，藤森，堀江，山本，渡辺
本橋

議題1：前回議事要旨の確認

確認された。

議題2：研究班報告書のまとめ方

- ・椿より、WHOのカントリーレポート案を先方に送付したことと共に、研究班総括報告のアウトラインについて説明がなされた。これに対して研究班員並びに厚労省、自殺対策の現場を代表する、清水氏、次期厚労科研を組織する可能性のある本橋教授の意向を確認した。特に、現場で行われる必要な情報収集と自殺研究として可能な情報収集とのギャップについて議論が行われ、それに起因する困難について報告書に記載することとなった。

議題3：研究報告書のとりまとめについて

年度内に報告書印刷経費を執行するため、各分担者，協力者は，3月24日までに代表者に各領域の報告書並びにパネル質疑の回答を提出することとした。